

1. 開催日時 平成 21 年 3 月 23 日（月曜日）10 時 00 分～11 時 30 分
 2. 開催場所 市役所 6 階 第 4 委員会室
 3. 出席者
- (1) 委員：下津谷委員・新山委員・小川委員・佐藤委員・石神委員
 - (2) 市側：和田文化スポーツ振興課長・犬塚副主幹・三石・後野
4. 開会
 5. 委員長あいさつ
 6. 議題等

【報告事項】

- (1) 平成 20 年度文化財保護主要事業の進捗状況について
事務局より資料に沿って報告
質疑なし
- (2) 国史跡下総小金中野牧跡保存管理計画について
事務局より資料に沿って報告。
委員長：この計画書は今年度（平成 20 年度）中にできるのか。
事務局：3 月末刊行で作業を進めている。
委員長：国史跡の保存管理計画書の印刷部数と配布については
事務局：300 部作成する。主に全国の関係市町村および県内市町村、また市民の目に触れるところでは図書館に配布する予定である。販売はしない。
委員長：この策定作業は国庫補助事業か
事務局：平成 19 年度は市単独事業、平成 20 年度は国庫補助事業として国、県の補助を受けて事業を行った。
委員：計画書の一般市民への頒布予定はないのか。
事務局：市民対象という意味では市ホームページから PDF ファイルでダウンロード可能として行きたい。
- (3) 国史跡下総小金中野牧跡の周知及び活用したまちおこし事業について
事務局より資料に沿って報告。
委員長：実施（人員）は文化財担当でまかなったのか。他担当の応援もあったのか。
事務局：NPO を中心とした市民の方々の力による。文化財担当としては史跡の管理の面を中心にかかわっている。まだ未整備のため、十分な活用はできていない状況にある。
委員長：予算的なものは市が出しているのか。
事務局：種々イベントの参加費については受益者負担としている。また、参加者に協力金という形で少額負担してもらい、それがプラスになれば、史跡保全活動に還元しようという目論見もある。このイベントについては市の持ち出しはない。来年度は周知についての負担金（50 万円）を予算化している。馬については JRA の協力を得ている。
委員：史跡が知られるようになってくると、車での来場者も増えてくるのではないか。駐車場の対応はどうか。

- 事務局：駐車場の問題は保存管理計画策定の中でも課題となった。考え方としては史跡のそばに駐車場がなくてもいいのではないか。例えば市役所に駐車してもらい、歩いて他の野馬土手や史跡以外の他のものも見てもらうことができる。将来的にはそのあたりも具体的に考える必要もある。
- 委員：市の中を歩いて周って帰ってもらう方法は必要である。駅から史跡へのルート作りなど、公共機関を使って周ってもらう工夫も必要である。
- 事務局：3月議会の中でも観光資源としての期待をするという質問も出ている。市としても今後、周知を中心として、整備も行うといったことを実施計画に乗せていくことになる。まちの活性化という点からは文化財にとどまらずセクションにこだわらず横断的に市内全体の協力を得ながらやって行ければいいと考えている。
- 委員：史跡見学だけでなく梨狩と結びつけたり、史跡の植栽の工夫などもできればしていただきたい。
- 事務局：点と点を結ぶアイデアなどで活用を図りたい。
- 委員：資料館のボランティアガイドの市内ガイドや各種団体が市内を歩いて新たな発見をできるような形になれば、史跡の活用はなお一層有意義になるのではないだろうか。
- 委員：史跡関連の地図は作成しているのか。分布地図ではなく、歩いて周れるウォーキングマップ的なものということであるが。
- 事務局：まだ作成はしていない。
- 委員：市川では大学と提携してまちを歩くというイベントを実施して参加者がかなりいる。携帯電話QRコードを設置し、それを見ながらまちを歩けるツアーを組んでいるので、そんなにお金を掛けなくてもいろいろな整備ができると思うので、参考として。
- 委員：人が入ってくるようになると、トイレや食事をする場所の要望も増えてくる。そういう問題が顕在化している自治体もあるようだ。
- 委員長：公共施設のトイレを使えるようにするということもあるが、有料施設のトイレだけを無料で使っていくということもあった。有料施設では入館料で施設維持をまかなうということもあるので、注意したい問題である。
- 委員：商店街とタイアップでトイレを使わせてもらえるようにはできないか。すぐに作ることはできない。仮設トイレも費用がかかる。またマップは時間や距離を参考にしたい人もいるので、資料として付けていただきたい。
- 委員長：案内表示はあるが距離・時間が書いていないことが多いのであるといいと思う。
- 委員：史跡までの道のりが入り組んだところではわかりづらいところもあるようではあるが。
- 委員長：道案内は地元感覚だとわからないことも多い。他所から来た人がわかるものが良い。実際自分自身も他で案内がなくなってしまうわからなくなったことがある。まちおこし事業は面白い点がいっぱいあるようだ。これから続くものだと

思うが、年間を通して時期毎にNPOと協力して何かできるということもいいのではないか。

委員：イベントとなると、経費的な面もあるので、個人で見てもらおうということも重要な柱として考えることも大事である。

事務局：屋外イベントなので、季節的には春と秋という感じではないだろうかと考える。まずは第1回の結果を見てということになる。

(4) その他

事務局：国史跡下総小金中野牧跡保存管理計画策定委員会を終えて新山副委員長から一言感想をいただければと思う。

副委員長：文化財審議会の代表として策定委員会にださせてもらい、計画書がまとまったが、これで終わりではない。たびたび足を運びたくなる史跡にしなければならぬと思う。説明会やイベントも人を集めることは良いが、また来てもらうためにはどんな工夫が必要なのだろうかと考えた。植物の立場からこの史跡とウマのつながりとして考えると、野草を餌にしていることから、当時はどんな植物が生えていて、どんなものを餌として食べていたのかという考えにいたる。

昔は市の花であるキキョウは野生で生えていて、秋の七草になっている草も野生でたくさんあったのだろうと思う。そこで当時の植物の様子を知る手がかりは何かないかと考えたとき、捕込や野馬土手の植物が一つの手がかりとなってくる。あるいは地域の小さな森や林を手がかりにして昔の植物を探っていくこともできる。

植物は季節感があり、何回も見に来ることができるので、土手そのものだけを整備するのではなく、そこに今ある植物を含めて検討し、何回も見なくなる将来性のある整備をすることが大事だと思う。貝柄山公園とも上手く合わせてできればよいと思う。策定委員会に出席してそんなことを考えるようになった。

委員：下草を刈らないと里山は維持できないのか

副委員長：昔は農家の仕事として下草刈を行って、刈ったものは燃料としていた。

委員：下草を刈ると新たな植物が出てくる。手を入れないと生態系に影響もある。

副委員長：木が低いうちは木と同じ勢いで下草も生えるが、木が大きくなってくると影ができ、下草も変わってくるので、今の下草も50年かけて変わってきているのである。今は毎年手をいれているから、里山の風景になってきている。ですから、手を入れないと変わってくるし、里山の状態でないと見られない植物もある。また、年月かかって出てきている植物があるので、植物を見た上でも整備をした方がよい。

捕込は前からすると木は減ってきているが、下草は生えてきている。秋に草を刈るのはいいが、春先や夏に刈ると、秋に咲くものが刈られてしまい、いつまでも見られないということになる。だから草も刈る時期を考えた方がよい。昔の里山は冬に手入れをしていて、夏には刈っていない。

委員長：確かに植物は刈る時期がある。使うために刈るということもある。

- 委員：ヤマに手を入れる時期、また手を入れる植物の種類や用途も決まっていた。
下草も刈らない。そういう意味で先人に学ぶ点は多々あるのではないだろうか。
- 委員長：捕込の杉の木は後から植えたのだと思うが、今後はどう変えていくかが問題である。木は切ってしまうと景観は変わってしまうのだろうが、この点は保存管理計画には触れているのか
- 事務局：保存管理計画の中では具体的な形では言及していない。
- 委員：保全ということで史跡全体を見て行かないと、植物がなくなったために崩れてしまう恐れもある。落葉樹もあった方がいいとは思いますが、竹は残っているのか
- 事務局：竹の上は切ってはいるが、地下茎は残っている。実際の整備でその取扱は決めて行きたい。
- 委員長：他には何かあるか。
- 委員：市指定レベルの文化財の見直しをしていただきたい。開発や代替わりによる消失の恐れも含めて基本調査をしておく必要はあると思う
- 委員長：文化財への標識がない。他から来た人が捕込に行かれないのではないかと
思う。公共交通機関からの案内は表示できないものか。文化財マップも良
いがこちらも検討いただきたい。
- 事務局：新京成の広報誌に国史跡及び4月のイベントを取り上げてもらい、駅に無
償でポスター、また船橋新京成バスにもポスターを掲示してもらっている。
- 委員長：国史跡は鎌ヶ谷市の目玉になっているので大いに広げていってもらいたい
と思います。
では、以上でよろしいでしょうか。会議を終わります。

【会議終了】

以上会議の経過を記載し、間違いがないことを証するため、次に署名する。

平成21年 月 日

署名人 新山 恒雄 ㊟